

辛亥革命で 中華民国が成立



危機が深まった清朝は、辛亥革命をへて滅亡。国内は軍閥割拠の混乱が続いた。

中華帝国の終焉と 軍閥割拠による混乱

清朝の財政危機

義和団事件の巨額賠償
清朝改革(变法自强)の挫折
鉄道国有化計画で解決を図る

外国からの借款の担保にするため
反対
鉄道を保有する国内の資本家たち

辛亥革命勃発(第二革命) 四川暴動・武昌蜂起 民衆蜂起へ

大半の省が1カ月中に独立

中華民国成立

臨時大總統に孫文

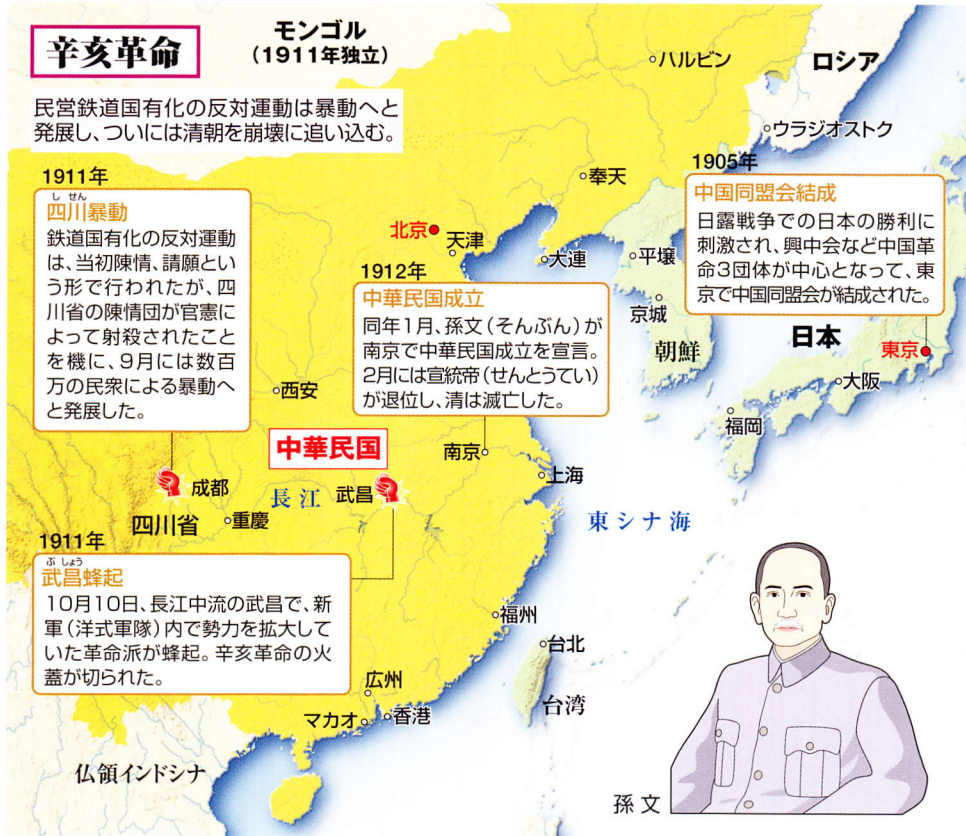
宣統帝退位(清朝滅亡)

袁世凱、第2代臨時大總統就任

独裁化
国民党弾圧
袁政府打倒の蜂起失敗(第二革命)

軍閥割拠の時代へ

1915年 袁世凱、帝政復活を宣言
1916年 袁世凱、帝政を取り消し。(第三革命)
孫文らは日本に亡命



清では、変法自強の改革運動が挫折したのち、義和団事件で巨額の賠償金を課せられるなど、危機がいよいよ深刻化していた。国内では清朝に対する不満が高まり、各地で革命結社が生まれていた。1905年には興中会など3団体が、孫文を総理とする中国同盟会を結成。民族独立、民権確立、民生安定の三民主義を掲げ、清朝の打倒と国民国家の建設を旨として武装蜂起をくり返した。

一方、清朝政府は08年に憲法大綱發布を公約するなど、改革に取り組んだが、11年に財政危機の打開策として民営鉄道の国有化を宣言すると、各地で反対運動が起り、四川では暴動となった。同年10月に革命派の軍隊が武昌で蜂起して革命政権を樹立すると、この動きは全国に波及し、14の省が独立を宣言。辛亥革命(第一革命)が勃発した。翌年には、孫文を臨時大總統とする中華民国が成立した。

清朝は、北洋軍閥の指導者であった袁世凱に革命政府との交渉にあたらせ、この危機を乗り切ろうとしたが、袁は革命政府と内約を結び、自らが臨時大總統になることと引き換えに宣統帝(溥儀)を退位させ、清朝を滅亡させた。革命派は中国同盟会をもとに国民党を結成して議会を掌握したが、列強からの援助で力をつけた袁世凱に弾圧され、13年の袁政府への挙兵(第二革命)も失敗に終わった。その後、正式な大總統に就任した袁は、15年には皇帝即位を企てるが失敗(第三革命)。翌年袁が病死したのちは、列強の援助を受けた軍閥が各地に割拠し、中国は分裂状態に陥った(P131参照)。

孫文

[1866~1925年]

中国の革命家。広東省に生まれ、1894年に清朝打倒を旨としてハワイで興中会を組織し、広州で蜂起したが失敗。日本に亡命する。1905年に東京で中国同盟会を組織。「三民主義」を掲げ、辛亥革命時には中華民国臨時大總統に就任した。24年には第1次国共合作を行う。現代中国の「国父」として敬愛されている。

Key Word